

令和5年度第2回庄原市「学びの変革」推進協議会

令和5年9月12日（火） 庄原市立庄原小学校

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図る」ことを目的に、研修会を行いました。

【研究授業】教科等:第6学年1組 特別活動

授業者:庄原市立庄原小学校 教諭 長田 ちひろ

【事後協議】『「本質的な問い」による授業改善に向けて』

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



【グループ協議】

- 思考ツール(フィッシュボーン)が効果的に活用され、全員が自分の考えをもって話し合いに臨んでいた。
- 友達と自由に話し合う姿が見られた。一人一人が当事者意識をもてる課題の設定、受容的雰囲気づくり、考えをもたせる事前指導等が参考になった。
- 1回目の話し合いで出された学級の課題を、2回目の話し合いのテーマと関連させられれば、より課題に迫ることができたのではないかと感じた。

【講話・交流】「すべての児童生徒の『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて」

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 丸山 博章

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 塩田 佐恵

□「学びの変革」推進担当者として、2学期以降、研究授業にどのように取り組んでいくか交流を行った。

- 「本質的な問い」による授業改善においては、「主体的・対話的で深い学び」が実現できた児童生徒の姿をより具体的に捉え直し、教師の見取りや指導、支援のあり方を明確にすることが大切である。児童生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせながら深く考えていく展開になっていたか、見直しを行うことも必要である。



【参加者の感想等】

- ◆教科の時間だけでなく、特別活動(学級活動や委員会活動)等でも話し合いをする際には、自分事として考えられるような手立てを考えていきたい。
- ◆授業参観から、場の設定、事前の声かけや準備等の、適切な教師のファシリテートの大切さを改めて感じることができた。所属校でも本日の子供たちのような姿をイメージして指導していきたい。
- ◆主体的な学びに関わる生徒の姿の具体化を事前に行い、研究授業の事前協議を行う際に、授業者及び参観者が生徒の思考の流れを想定しておくことができるような仕掛けを行っていく。授業後は、授業参観シートや単元構想シートを活用しながら、具体的な生徒の姿で研究協議を行ってきたい。